

「東日本大震災からの復旧・復興を担う専門人材育成支援事業」実績報告書

1. 事業の概要

(1) 事業名(全角30字以内)

被災地で安定的かつ良質な医療を提供するために必要な医療クラーク育成事業

(2) メニュー・分野

メニュー		分野
○	1-① 産業界の高度化等において必要な専門人材育成のための人材育成コース試行導入等【短期】	③医療情報事務
	1-② 産業界の高度化等において必要な専門人材育成のための人材育成コース試行導入等【中長期】	
	2 被災地においてニーズが高く供給が不足する分野の教育支援	
	3 専修学校等の就職支援体制の充実強化	

「その他」分野名

(4) 事業実施期間

平成24年1月16日～平成24年3月29日

(5) 事業の概要

東日本大震災の津波に見舞われた沿岸部の医療機関では、患者様のカルテが流失するケースが相次ぎ、病歴が記された「究極の個人情報」が、流失をはじめ、がれきや土砂にうもれるなど、膨大な医療記録を完全に回収することは不可能となった。

また、地震直後には各地から救援医師の派遣等が活発に行われていたが、現在は地域の自立的再生に軸足が移行する段階にあり、医師、看護師等医療従事者の負担が拡大する一方となっている。

本事業では、岩手県沿岸部を中心として県内に居住する住民に対し、高品質で安定的に医療を提供するために、医師の代わりに電子カルテの代行入力や医師事務文書の作成を補助的に行う医療クラーク(医師事務作業補助者)の育成を行い、地域医療の再生に貢献する。

2. 文部科学省との連絡担当者

省略

3. 事業内容の説明

(1) 事業の内容について

東日本大震災で壊滅状態となった岩手県陸前高田市では、流出したり、判読不能になったカルテが3万冊と報じられ、岩手県立高田病院では診察を受けた患者様の記録がすべて失われてしまった。また、宮城県石巻市立病院は旧北上川河口近くにあり、1階にあった外来患者様のカルテが泥をかぶり、敷地内の倉庫に保管していた古いカルテが流失し、その回収を断念せざるを得ない結果となった。さらに、電子カルテのサーバー室も津波にのまれ、システムダウンし現在は山形県の病院のサーバーの一部を開放し共同運営をする事態となっている。

このような状況の中、記録紙としてのカルテのデメリットや病院単体の電子カルテシステムの欠点について各地で検証が行われ、クラウドを利用した電子カルテシステムの導入や診療情報の共有化のニーズが高まっている。

また、このようなネットワーク化した医療システム導入については、医師の負担が重くなることもあり、医師の代わりに医師が行わなければならない事務作業を代行して行う医療クラークに対する人材ニーズが高まっている。

本事業では、上記のような状況に鑑み、医師の代わりに電子カルテの代行入力業務を請け負うことができ、かつ各種診断書などの医療文書も書くことができる医療クラークの人材を育成し、被災地はもちろんのこと各所に避難している住民の方々に、安定的に高品質な医療を提供するための環境づくりに貢献することとした。

(2) 教育プログラム・教材の開発内容等

【教育プログラム開発】

①受講対象者は、過去に医療機関において事務や看護師等の勤務経験のある方等で一定レベルの医療知識を身に付けた者を対象とし、短期的に集中して電子カルテの代行入力や文書作成能力を身につける教材とした。

②開発物は「電子カルテ代行入力教材」「電子カルテ代行入力問題集」「電子カルテ代行入力用ビデオ教材」「医療文書作成教材」「医療文書作成問題集」「医療用語集」の4つの教材と2つの問題集を開発した。

③電子カルテおよび医療文書作成教材は30時間程度で教育を行う教材とし、ビデオ教材および医療用語集は補助的教材として開発した。

④教材は、平成21年度、平成22年度の文部科学省委託事業等で日本工学院専門学校が開発した「電子カルテ代行入力教材」「視聴覚教材」「文書作成教材」「医療用語集」をベースに同校で実践した際の改善点や医療現場からの最新情報を取り入れて内容の見直しを行い、早急に講座が実施できるよう配慮した。

⑤開発の工程は、教材開発チームにより内容を精査し、本校学生60名を対象として模擬的授業を展開し内容を検証した。

(3) 実施講座等の内容

■電子カルテ入力講座

目 標: 電子カルテやオーダーリングシステムを医師に代わって入力ができる人材の育成を目指す。

内 容: ①入力権限の設定ができる。
②患者情報の入力ができる。
③SOAP入力ができる。
④シェーマ図への入力ができる。
⑤診療等の入力ができる。
⑥データの共有ができる。
⑦オーダー入力ができる。

■医療文書作成講座教材検証講座

目 標: 医療文書作成を医師に代わって入力ができる人材の育成を目指す。

内 容: ①医師事務作業補助者として必要な医療関連法規(医療法、医師法、薬事法等)を理解する。
②医師事務作業補助者として必要な医学知識、薬学・検査、医療用語を理解する。
③様々な医療保険制度の違いを理解する。
④医療現場での文書作成に必要な「読解力」および「語彙力」を身につける。

(4)事業実績について

■学生向け検証講座

目的:教材の検証は、本校の医療事務学科の学生を対象として以下の要領で開催した。

日時:平成24年2月23日(木)・24日(金)・27日(月)・28日(火) 計4日間
午前の部 9時30分～12時40分
午後の部 13時～16時10分

授業時間: 文書作成6時間+電子カルテ6時間=12時間 × 2クラス (合計24時間)

場所:盛岡医療福祉専門学校

受講者:盛岡医療福祉専門学校 医療事務学科1年生60名

講師:文書作成 株式会社NIメディカルオフィス 伊藤典子先生
電子カルテ代行入力 ケアアンドコミュニケーション株式会社 柄沢 清先生

■一般向け検証講座

目的:医師事務作業補助者の業務を理解し、医師の代わりに電子カルテの代行入力や文書作成が出来る人材を育成する。

日時:平成24年3月3日(土)・4日(日)・10日(土)・11日(日)・17日(土)・18日(日) 計6日間
午前の部「文書作成」 9時30分～12時40分
午後の部「電子カルテ」 13時40分～16時10分

授業時間 文書作成17時間+電子カルテ12.9時間=29.9時間
オリエンテーション2.1時間 計32時間

場所:盛岡医療福祉専門学校1号館

*今年度の募集については、PCルームの設置やソフトウェアのインストール状況を鑑み盛岡で行うこととした。また、被災地からの通学としては、宮古市へ送迎バスを出すこととした。

受講募集および受講者数:35名

*参加募集は、県内でメジャーな岩手日報への広告掲載による方法で行った。結果として、募集定員20名で募集したところ、岩手県全域から100名を超える問い合わせがあり、申し込み者数は95名であった。申込者の居住地域や申し込み動機等は事業報告書に記載。

講師:文書作成 株式会社NIメディカルオフィス 伊藤典子先生
電子カルテ代行入力 ケアアンドコミュニケーション株式会社 柄沢 清先生

0

(5)成果の普及・平成24年度以降の事業展開の予定(自校・他校・企業・団体・地域との関係)

受講希望者の予想をはるかに超える多さ、また、実際に受講した方々の熱心な姿勢をみると、現在、岩手県内における中堅医療秘書養成のニーズは大変高いものと推察できる。本法人で、次年度も引き続き事業を展開するかは全くの白紙であるが、今後、県内において同様の講座を開講することは、医師不足解消の一助となり、ひいては被災地復興へとつながるものと期待できる。

地理的に広範囲にわたる県であるため、インターネットを利用し、自宅、あるいは最寄の公共施設で講座を受講できる仕組みを構築する必要があるかもしれない。たとえば、被災地にある公共施設間を結び、適切なソフトを開発してそうした実践をすることは、産官学連携の好例ともなる可能性があると思われる。

4. 事業のスケジュール

	1月					2月					3月				
	初旬	上旬	中旬	下旬	末	初旬	上旬	中旬	下旬	末	初旬	上旬	中旬	下旬	末
協議会							○					○			○
開発チーム							○		○			○			○
開発			●	→											
教材検証講座									●	→					
実証講座														●	→
成果発表会															○

5. 事業実施体制

(1) 推進協議会の構成

組織名	代表者	役割等	都道府県
岩手県薬剤師会(会長)	畑澤 博巳	情報収集・提供	岩手県
池田外科・消化器内科医院(院長)	池田 健一郎	情報収集・提供	岩手県
遠藤歯科医院(院長)	遠藤 憲行	情報収集・提供	岩手県
株式会社 システムエイド(常務取締役)	中舘 勝寿	情報収集・提供	岩手県
株式会社 メディコム東北	伊藤 健勇	情報収集・提供	岩手県
株式会社NIメディカルオフィス	伊藤 典子	開発支援	東京都
ケアアンドコミュニケーション株式会社	柄沢 清	開発支援	東京都
株式会社日本教育ネットワークコンソシアム	飯塚 正成	開発支援・コーディネート	東京都
盛岡商工会議所(センター長)	泉沢 力	情報収集・提供	岩手県
盛岡公共職業安定所	田村 正廣	情報収集・提供	岩手県
日本工学院八王子専門学校	野田 雅司	開発支援	東京都
専門学校アレック情報ビジネス学院	国分 義史	情報収集・提供	青森県
盛岡医療福祉専門学校	児玉 義輝	代表	岩手県
盛岡医療福祉専門学校	菊池 裕生	副代表	岩手県
盛岡医療福祉専門学校	佐々木 純子	情報収集・書記	岩手県

(2) 分科会の構成(設置は任意)

組織名	代表者	役割等	都道府県
株式会社NIメディカルオフィス	伊藤 敦子	開発・研修担当	東京都
ケアアンドコミュニケーション株式会社	柄沢 清	開発担当	東京都
株式会社日本教育ネットワークコンソシアム	飯塚 久仁子	開発担当	東京都
盛岡医療福祉専門学校	菊池 裕生	開発チーム代表	岩手県
盛岡医療福祉専門学校	佐々木 純子	開発チーム副代表	岩手県
盛岡医療福祉専門学校	鈴木 綾	開発・研修担当	岩手県

(3)事業実施協力専修学校・企業・団体等

組織名	代表者	役割等	都道府県
岩手県薬剤師会(会長)	畑澤 博巳	情報収集・提供	岩手県
池田外科・消化器内科医院(院長)	池田 健一郎	情報収集・提供	岩手県
遠藤歯科医院(院長)	遠藤 憲行	情報収集・提供	岩手県
株式会社 システムエイド(常務取締役)	中館 勝寿	情報収集・提供	岩手県
株式会社 メディコム東北	伊藤 健勇	情報収集・提供	岩手県
株式会社NIメディカルオフィス	伊藤 典子	開発支援	東京都
ケアアンドコミュニケーション株式会社	柄沢 清	開発支援	東京都
株式会社日本教育ネットワークコンソシアム	飯塚 正成	開発支援・コーディネート	東京都
盛岡商工会議所(センター長)	泉沢 力	情報収集・提供	岩手県
盛岡公共職業安定所	田村 正廣	情報収集・提供	岩手県
日本工学院八王子専門学校	野田 雅司	開発支援	東京都
専門学校アレック情報ビジネス学院	国分 義史	情報収集・提供	青森県
盛岡医療福祉専門学校	児玉 義輝	代表	岩手県
盛岡医療福祉専門学校	菊池 裕生	副代表	岩手県
盛岡医療福祉専門学校	佐々木 純子	情報収集・書記	岩手県

(4)事業の推進体制(図示)

